



(仮訳)

プレスリリース

肥料に関する G7 臨時農業大臣会合

G7 農業大臣は、本日会合を開催し、中東における紛争やイランによるホルムズ海峡の事実上の封鎖が、肥料価格及びバリューチェーンに与える影響を踏まえ、どのように我々が自国の農業者を支援しているかについて協議を行った。これは、我々の農業者にとって、また世界の食料安全保障にとって戦略的に重要な課題である。

FAO、AMIS 及び OECD の分析は、中・長期的に顕在化しつつある複数のリスクを示しており、特に肥料や非道路用燃料に関して、農業コストや農業経営の経済的持続可能性に直接的かつ具体的な影響を及ぼしている。G7 メンバーは、これらの動向を注意深く監視するとともに、価格上昇が農業者に与える影響の緩和及びグローバルサプライチェーンの多様化と強靱性構築に向けた措置を検討している。

大臣は、国際機関からの分析的貢献に加え、緩和措置や、革新的かつ多様化された投入資材及び農業慣行への投資等を含む、G7 メンバー間での継続的な情報共有が極めて有益であったことを確認した。また大臣は、食料及び肥料のサプライチェーンの機能維持、農業・食料システムの強靱性強化、そして世界の食料安全保障の促進には、透明で予測可能な市場が重要であることを認識した。

G7 農業大臣は、本日の対話がエビアンで開催される首脳サミットでの議論に資するものであることを確認するとともに、必要に応じて高級実務者レベル又は閣僚レベルで、G7 の協議を継続する用意があることも確認した。